

〔令和 8 年 6 月 11 日建設環境委員会資料〕

議会事務局

## 建設環境委員会調査資料目次

陳情第 8－2 号

ぶんバスのさらなる発展を求める陳情

【議会事務局】

資料

- ・別紙 コミュニティバス高齢者割引運賃等導入の政策的意図について

# 調 査 報 告 書

令和 8 年 5 月 29 日作成

担当部課名 議会事務局

課長氏名 鈴木 輝哉

電 話 内線 5102

番号	陳情第 8－2 号	受理年月日	令和 8 年 1 月 29 日
件名 <u>ぶんバスのさらなる発展を求める陳情</u>			
調査項目 (1) コミュニティバス高齢者割引運賃等導入の政策的意図について			
<p>(1) について</p> <p>東京都内でコミュニティバス高齢者割引運賃等を設定している市に対し、その導入の政策的意図について調査を行いました。その結果、各市から得た回答は別紙のとおりです。</p>			

○ 添付資料 あり

別紙 コミュニティバス高齢者割引運賃等導入の政策的意図について

## コミュニティバス高齢者割引運賃等導入の政策的意図について

No.	自治体名	基本運賃・高齢者割引運賃等	高齢者割引運賃等導入の政策的意図
1	町田市	<b>【基本運賃】</b> 大人：210円（ICカード210円） <b>【高齢者割引運賃】</b> 金森地区「かわせみ号」 70歳以上は現金100円	運行当初は東京都シルバーパスを導入していたが、シルバーパス利用率が年々増加したことで収支が悪化したため、運行内容の見直しを行った結果、2017年7月1日にシルバーパスを廃止し、高齢者割引運賃の導入を実施した。
2	小金井市	<b>【基本運賃】</b> 大人：180円（ICカード178円） <b>【高齢者割引運賃】</b> 高齢者（65歳以上）：100円	※小金井市コミュニティバス「C o C oパス」再編計画（令和4年8月）29～31ページ参照（別紙）
3	国立市	<b>【基本運賃】</b> コミュニティワゴン「あおやぎっこ」 大人：200円 <b>【高齢者割引運賃】</b> コミュニティワゴン「あおやぎっこ」 70歳以上：100円	運賃の経緯については、「あおやぎっこ」前身の国立市コミュニティワゴン試行運行（H26.4.16運行開始）にさかのぼる。運行は、タクシー事業者が行うことになった。 ①東京都シルバーパスの補助金の流れが、東京都→東京バス協会→バス事業者であったため、タクシー事業者は受け取る術がなかった。 ②当時すでに東京都から「新たなコミュニティバスに対してシルバーパス適用はできない」旨の通達が出ていた。 このことからシルバーパス補助金なしを前提に運賃の検討を行った。収支も踏まえながら検討を行い「運賃は200円を基本とし各種割引サービスも検討する」ことを決め、その後、高齢者の外出支援やシルバーパスが使える「くにっこ」との不公平感緩和などを考慮して「大人200円、小児・70歳以上（高齢者）・しょうがいしゃ半額」を決定し、同じ運賃で現在の「あおやぎっこ」に至っている。
4	西東京市	<b>【基本運賃】</b> 大人：150円 <b>【高齢者優遇措置】</b> 75歳以上の西東京市民の方へ敬老回数券（150円券10枚つづりで1,000円）を販売している。	運行経費の増大を理由として平成25年8月1日に実施した料金改定に伴い、未就学児・障害者を料金据え置きにするほか、高齢者の利用も多く、お出かけの足を確保するため、料金改定前と同料金で乗車できるよう敬老回数券を導入した。 シルバーパスについては、原則コミュニティバスを除く事業であるため、導入を検討していない。

### 3 運賃及び割引制度

これまで CoCo バスは 100 円の運賃で運行を行っていましたが、路線バスとの運賃格差とそれに伴う路線バスの利用者減少の助長、地域間での不平等が課題となっていました。

そのため、利用者・運行事業者・市の 3 者が、それぞれ過度な負担なく公共交通を支えることを目標として、交通弱者への配慮や路線バスとの競合緩和を考慮した運賃水準や体系について、再編基本方針の④「持続可能な運行形態・サービスの提供」に基づき、検討を行いました。

#### 3.1 運賃及び割引制度に関する検討内容

運賃及び割引制度に関するこれまでの主な検討経過及び検討結果は以下のとおりです。

今回導入する運賃及び割引制度は黄色の箇所です。その他割引の導入については再編後、必要に応じ検討します。

		検討の目的と課題		地域公共交通会議及び事業者からの意見	基本運賃案・割引制度案
運賃	基本運賃	目的	路線バスとの公平性、適切な受益者負担	・路線バスとの公平性から 180 円を支持すべきである	180 円(小児 90 円)
		課題	利用者負担の増加、小銭発生	・小銭発生により運転士の収受時の負担は増加する ・小児運賃の割引額が他の割引制度と違いわかりにくい	理由 路線バスとの公平性、地域間の不平等の解消、CoCo バス収支率の維持のため、路線バスと同等の運賃とする
	IC 運賃	目的	利便性向上		IC 運賃を導入 178 円(小児 89 円)
		課題	CoCo バス・ミニでは非対応	・CoCo バス・ミニとのサービス格差を懸念	理由 利用者の利便性向上、路線バスとの公平性のため導入
割引制度	回数券	目的	高頻度利用者への割引	・現行と同等の販売金額(2,000 円)が望ましい	171 円(小児 86 円)(割引率 4.7%)
		課題	回数券の管理・販売による負担増加	・現行回数券との移行時の対応方法の調整が必要	理由 高頻度利用者への割引制度として導入(定期券、学生割引の代替)
	定期券	目的	高頻度利用者への割引	・特になし	導入見送り
					理由 他市の導入率が低い高頻度利用者への割引制度は回数券で対応
	障害者・児童福祉法適用者割引	目的	交通弱者への配慮、路線バスとの公平性	・100 円、50 円単位での運用が望ましい	90 円(小児 50 円)
		課題	運転士による確認負担の増加	・路線バスと同等の扱いが望ましい	理由 交通弱者への配慮、路線バスとの公平性(京王バス基準に準じる)

		検討の目的と課題		地域公共交通会議及び事業者からの意見	基本運賃案・割引制度案	
割引制度	バス特	目的	IC カード利用の促進、路線バスとの公平性	・小金井市内を運行する路線バス事業者では令和 3 年度にバス特サービスを終了済み。	導入見送り	
		課題	CoCo バス・ミニでは非対応		理由	路線バスでのサービスが終了しており導入しない
	学生割引	目的	高頻度利用者への割引(学生を追加で割引)	・特になし	導入見送り	
					理由	他市の導入率が低い学生の高頻度利用者への割引制度は回数券で対応
	乗継割引	目的	乗継負担の軽減	・発券、確認作業に伴う運転士負担増加を懸念 ・需要が少ないと予想される	導入見送り	
		課題	発券等による運転士への負担の増加		理由	需要に対する運転士負担の増加、乗継利用者への割引制度は 1 日乗車券で対応可能
	1 日乗車券	目的	乗継負担の軽減	・路線バスで紙券はすでに廃止 ・金券管理方法について調整が必要	1 日乗車券 500 円 (スクラッチ式)	
		課題	紙券の場合は運行事業者と調整が必要		理由	乗継利用時の割引制度としての有効性を考慮
	未就学児割引	目的	交通弱者への配慮、子育て世代への支援	・路線バスと同等の扱いが望ましい(大人 1 人につき 2 名まで)	未就学児無料 (人数制限なし)	
		課題	運転士による確認負担の増加		理由	交通弱者への配慮、子育て世代への支援
	シルバーパス	目的	路線バスと同等の割引	・対象者が 4 割以上となり、財政負担の増大(大幅な減収)について懸念 ※シルバーパスを CoCo バスに適用する場合は、減収分に対する東京都補助金が対象外のため、市が全て負担する必要がある	導入見送り	
		課題	大幅な財政負担の増加		理由	運賃全額の割引は財政負担が過大、高齢者への割引制度は高齢者割引で対応
	高齢者割引	目的	高齢者の移動支援	・毎回年齢確認を行わない形が望ましい ・専用パスは発行事務の負担、個人情報の管理等に懸念 ・年齢確認による運転士負担増、運行遅延の懸念 ・財政負担の増大を懸念 ・対象年齢はシルバーパスと同等の扱いが望ましい	65 歳以上 100 円 (介護保険被保険者証の提示者を対象)	
		課題	財政負担の増加、運転士による確認負担の大幅な増加		理由	高齢者の移動支援のためシルバーパスの代替として導入 新たな専用パス発券による負担の増加、運転士の確認負担を抑える

### 3.2 運賃及び割引制度

他自治体の事例収集整理の結果を参考としながら、小金井市内を運行する路線バスでの料金設定等をもとに、地域公共交通会議にて議論を行い以下のとおりとします。

		運賃・割引制度	支払方法
基本運賃		大人:180 円 小児:90 円	現金、IC カード
一般割引	回数券	90 円券 35 枚綴り(3,150 円)を、 3,000 円で販売(割引率 4.7%) ※大人の場合 171 円(2 枚使用) ※現回数券の割引率と同率 ※車外販売のみ	回数券
	障害者割引 児童福祉法適用者割引	90 円(小児 50 円) ※対象は事業者制度に準拠	現金、IC カード
	1 日乗車券	500 円(大人・小児用共通) ※車内販売	現金のみ
特殊割引	未就学児割引	未就学児無料(人数制限なし)	—
	高齢者割引 (65 歳以上)	65 歳以上の場合 100 円 介護保険被保険者証を提示 ※第 2 号被保険者を含む  【割引の受け方は二種類】 ①車内で介護保険被保険者証を提示し、現金または IC カードで支払い ②高齢者専用回数券を使用 車外で介護保険被保険者証提示により購入 (100 円×10 枚を 1,000 円で販売)	現金、IC カード、 高齢者専用回数券

※1：高齢者割引を除く IC 運賃については路線バスの設定に準拠して IC 運賃を設定。

#### ➤ 高齢者割引の導入について

シルバーパスを導入すると運賃は無料となります。その減収分に対して、一般的に、路線バスには都から事業者へ補助がありますが、コミュニティバスは補助対象外となっていることから、CoCo バスのように利用者の大半が高齢者である場合、市の財政負担が増大します。よって、持続可能な運行が難しくなるため、高齢者については代替制度として割引を導入することとし、現行運賃の 100 円に据え置きます。

#### ➤ 介護保険被保険者証を提示することにした理由について

高齢者割引を受けるための確認方法として、運転免許証やパスポートなど年齢のわかる身分証明書等の提示が考えられますが、車内確認時の負担の増加や誤認などが考えられます。そのため、市内外を問わず、65 歳以上の方がみな保有している介護保険被保険者証を用いることとします。

#### ➤ 高齢者専用回数券の導入について

介護保険被保険者証の日常的な携帯の負担を軽減するため、高齢者専用回数券を導入します。ただし、運転士の車内販売負担を考慮して車外でのみの販売とすることとします。